

冬場に向けた新型コロナウイルス及びインフルエンザ対策について

4月に新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言が発令されてから半年、日本は世界に比して奇跡的に感染爆発を抑え(図1)、岐阜県でも連日の新規感染者数が1桁となり、第二波も収束に向かいつつあります。これらは、医療体制と検査体制の充実とともに、マスクの着用やアルコール消毒、手洗いの励行等、国民全体の感染予防への意識の高さによるところが大きいと考えます。

しかし、コロナは当初、暑さに弱い「冬場の疾患」と考えられていました。夏場に第二波が発生したのは異例の事態です。世界では、夏季休暇後の英国やフランスで再び感染が急拡大し、10月に入り、気温や湿度が下がると感染しやすいウイルス本来の特徴が、特に欧米で顕著に出ています。

今後、日本でも冬に向けて、気候の変化に伴う呼吸器の防御機能の低下等により、感染しやすくなるのは確かです。出入国の規制緩和で外国との往来が増えることによる感染者の入国と、気温と湿度の低下によるインフルエンザ等の呼吸器系ウイルス感染症の流行が予測されています。

これらを踏まえ、学校生活において、下記のことにご注意して生活をしてください。

記

1 マスクの着用、手洗い、手指消毒、換気の継続をお願いします

学校は、多くの生徒や教職員が集まり、三密（密閉、密集、密接）になりやすい環境です。これまでと同様、マスクの着用と手洗い手指消毒、換気を継続してください。対面あるいは隣席での会話をしながらの食事は、最も感染リスクが高い行為とされ、感染者が出た場合は、必ず濃厚接触者に指定され検査対象となりますので避けてください。(図2)特に大学受験を控えた3年生は、ワクチンも特効薬も無い新型コロナウイルスへの感染は、絶対に避ける必要があります。PCR検査で陰性であっても、濃厚接触者となれば、長期の出席停止となり、学習面で大きなハンディとなります。

2 自宅での検温、健康チェックカードの記入と提示について

登校時、健康チェックカードを持参せず、その場で検温を求める生徒がいますが、混雑の原因をつくり、他の生徒に迷惑です。必ず家で検温し、カードに記入して登校後に提示してください。

今年度の特例として、発熱や倦怠感など風邪の症状等がある場合や、味覚や嗅覚の異常がある場合は、新型コロナウイルス感染の疑いがあるとして、「出席停止（出席すべき日数から除外）」しています。この措置は本来、医師の「診断書」が必要です。その代替として、保護者

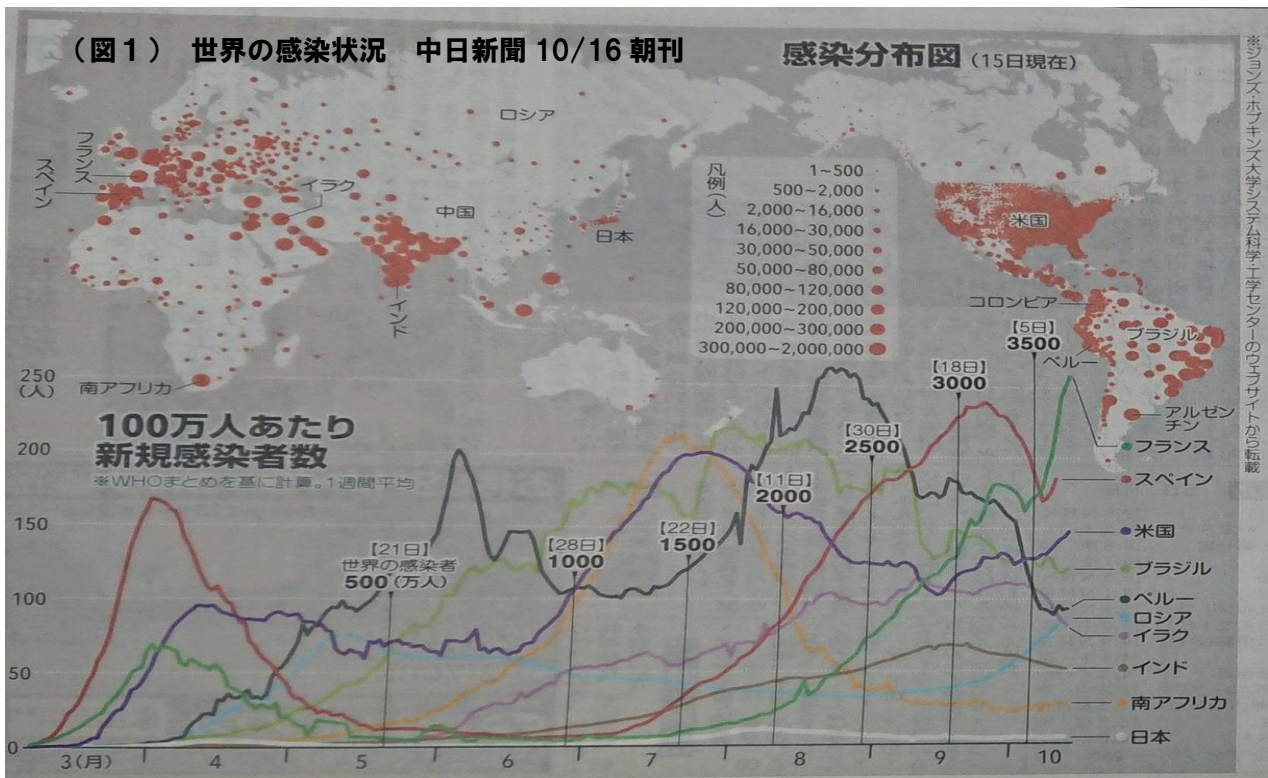
からの症状の申告（朝の欠席の電話連絡）と「健康チェックカード」への症状の記載が必要です。カードの記載と提出を必ず行ってください。

3 医療機関への受診について

発熱や風邪症状が3日以上続く場合は医療機関を受診し、PCR検査について相談をしてください。なお、基礎疾患や授業に出られない特別な事情がある場合は、担任にご相談ください。

4 インフルエンザの予防接種を勧めます

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は症状が似ています。発熱などの症状が出て受診した場合、例年より医療機関の対応に時間がかかることが予測されます。また発熱等の症状がある場合、大学受験においても別室受験や追試への変更等、多くの影響が出ますので、リスクを軽減させるためにもインフルエンザの予防接種を勧めます。



(図2) スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション

左：湿度が高いと飛沫は落下して飛散しにくい 右：湿度が低いと飛沫が拡散しやすい

